

議 事 概 要

1 会議の名称

令和7年度第1回長久手市中央図書館運営協議会

2 開催日時

令和7年7月1日（火） 午後2時から3時まで

3 開催場所

長久手市中央図書館 2階 AVルーム

4 出席者

(1) 委員（敬称略）

委員長	伊藤	真理
副委員長	吉田	真理子
委員	加藤	広也
委員	吉村	直彦
委員	板倉	純子

※6名中5名出席

(2) 事務局

教育部長
中央図書館長
図書係長
同係専門員

5 欠席者

委員 堀場 哲明

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴者人数

1人

8 審議の概要

報告事項

(1) 令和6年度事業報告

ア 利用状況

イ 第3次長久手市子ども読書活動推進計画
令和6年度の進捗状況・令和7年度目標値一覧

- (2) 令和7年度事業概要
(3) その他

9 問合先

長久手市教育委員会 中央図書館
TEL 0561-63-8006

議 事 録

<冒頭>

事務局 会議成立確認・資料確認
委員長 あいさつ
事務局 議事進行について委員長に一任

<報告事項>

委員長	それではお手元の資料に基づき、進めたいと思います。最初に報告事項(1) 令和6年度事業報告、アの利用状況と、イの第3次長久手市子ども読書活動推進計画のことについて、事務局から説明をお願いします。
事務局	【資料1~2を事務局から説明】
委員長	ありがとうございました。ご意見やご質問などあればお願いいたします。
委員	来館数が減ってる。貸出冊数を一人あたり5冊から10冊に増やして本の動きが遅くなったことは理解できます。図書利用、利用率など図書館としてもっと利用する人を増やしたいと思っているのか、本の回転をソフトランディングで動かしながら、今の動きを継続しようと思っているのか、よく理解できません。ねらいどころは何なんだろうと思います。利用者側からは、5冊を10冊にしてもらうことについては、非常にゆっくり読めるとか楽しみが増えるなど、ありがたいとは思いますが、図書館のねらいから考えると、もっと図書館を利用してもらう魅力のあるものにするためにはどうしたらいいかといういろんなテーマがあると思いますが、いかがでしょう。
事務局	令和6年度からカウンター業務を委託化する話が決まり、それに伴いそれまでの貸出冊数5冊、貸出期間2週間というサービス内容は、事務局の方で疑問がありました。近隣の図書館のサービスも把握してましたので、窓口業務を委託する前の

	段階で市民要望を把握する必要があるという考え方です。アンケートの項目の中に、貸出冊数を例えば5冊から10冊に増やす。それから、予約の冊数も当時3冊だけだったので、それは、事務局としては少ないと判断しまして、倍の6冊にする。貸出期間も愛知県内の図書館を調べてみると、2週間のところもあれば3週間のところもありましたので、一体どちらを求めてみえるんだろうということで2週間なのか3週間なのかというのもアンケートの項目の中に入れてみました。 結果は、ニーズが一番高かったのが、2週間から3週間に延ばして欲しい回答でした。何を一番に考えたかという、要望に合った貸し出しサービスに整えていきたいということです。今後いろいろ改善していくべきところは改善を行い、委託事業者と協議して、よい方法を見い出していきます。
委員長	図書館は何を目指していて、どのようにしていきたいかというところを追加をお願いします。
事務局	特に減少してるのは、新規登録者数です。それから、入館者数、貸出冊数です。今後、増やすことができるように考えていきます。
委員	だから、いろんな魅力のある企画を作ったり、いろいろ試行錯誤しながらやってらっしゃるんですね。 結果として市民のニーズを優先したがために、来館数が減ったという、期待とは反作用してると思うので、原因は何だろうと思います。ご苦労されてると思いますが、心配になりました。
委員	私も同じ意見で、減少の原因は貸出冊数と貸出期間だけではないように思います。北小学校が一気に低学年が増え、東小学校は一気にクラス数が増えました。子供たちが増えると、利用者も増えるのではないかと思います。東の方の市民の増加は、本当に多いです。例えば、各小学校等の図書館機能をもう少し強化していきたいのですが、課題だと思います。
事務局	ブックスタートはやっていますが、本好きの子どもは、急激には増えません。 小さいころの本好きの子が小中学校の進学に合わせて、その時に本が好きで図書館に行くようになっていくのが確かなことかと思いますので、そういった幼いころのブックスタートなど、子供の読書を継続し、いかに充実させていくのかという点は課題と捉えています。 いろいろなお知恵をいただきたいと思います。ありがとうございます。
事務局	新しい取り組みを資料の4で説明します。 夏休みブックトークの会です。初めての試みで、中央図書館の学校連携司書が今年

	の夏休み初めて全児童館でブックトークを行い、本の紹介を行います。 夏休み期間にすべての児童館に学校連携司書が伺い、ブックトークという、テーマにもとづいた本の照会をすることで、本の面白さを子供たちに直接伝えます。 これを全ての児童館でやってみようということで、学校連携司書が企画しました。 今まで児童館連携は長年やっており、1つの児童館につき200冊から300冊程度の本を中央図書館から提供し、2年程度で入れ替えを行います。図書館の司書が選書した状態のきれいな児童書を届けています。このイベントは、その本を使い、子供たちに本の紹介までするという、1歩進んだところの企画です。読書のきっかけになると考えています。
委員長	ありがとうございました。いろいろと図書館の認識も教えていただいて貴重なご意見いただけたと思います。その他いかがですか。
委員	読書の大切さを広める目的で、子供読書の日や子供の読書習慣などに合わせて、読書に関するイベントや企画展示を開催し、広報に努めますとありますが、今後の予定はありますか。
事務局	子供読書の日や読書習慣のような良い機会がありますので、そこで何か考えていきたいですが、具体的にあがってるものはありません。窓口業務の委託事業者には、イベントの協力も業務に含まれますので、協議しながら新しい企画をやっていく方向性です。また、正月の時期に本のお楽しみ袋を新たに企画しました。子供向けのイベントとして、読書の日などに合わせてできればどうかと前向きに考えています。
委員長	はい。ありがとうございます。
委員	基本目標1の3-1で、令和6年度の実績が全14ヶ所、令和7年の目標値が全15ヶ所となっています。増えているのですか。
事務局	はい。1団体増える見込みがあると伺いましたので、増やした数で目標値を出しました。
委員	わかりました。
委員長	では、よろしいようでしたら、報告事項の(3)、令和7年度の事業概要について、事務局からご説明をお願いします。
事務局	【資料3を事務局から説明】

事務局	ここで図書購入につきまして、令和８年度からのことにつきまして報告します。 資料は、机上の広報長久手７月号をご覧ください。８ページに事業総点検の企画政策課からの中間報告があります。市では令和６年度から事業総点検を始めました。事業総点検とは、限られた予算の中で市民ニーズに合った効率的、効果的で持続可能な行財政運営を目指すことです。これまでも随時業務の見直しを行い、財源の確保に努めてきましたが、厳しい状況が続いています。事業総点検を通じまして、事業の目的や成果を改めて検証し、廃止や改善につなげることで今の市民ニーズに合った事業を行うための財源を生み出すことを目指しております。詳しくは市のホームページでも説明していますが、中間報告としまして令和８年度に向けた検討状況を広報の８ページに載せています。中央図書館は改善を検討している事業という欄の中に図書購入費を削減するということを、やむを得なく載せましたことをご報告させていただきます。具体的な削減金額などは今後検討していくことになります。現在、図書館では本の修理ボランティアの方により、年間２０００冊以上の本の延命措置を行っています。また、図書館には地下に閉架書庫がありまして、約１５万冊の所蔵がありますので、積極的に活用し、全体のバランスを見ながら本の選書に取り組んでいきたいと考えております。以上です。
委員長	はい。ありがとうございました。何かご意見等ございましたらお願いします。
委員	文化の家は、アーティストインレジデンスの制度があり、若手のアーティストを育てるための支援制度で、アーティストさんが６人ぐらいみえて、その方たちがロビーのような空間に自分の本棚みたいにしておすすめの本を置くという、ちょっとした展示をしています。中央図書館にはないような資料、アーティストさんとしては自分が活動する上で参考になったりした資料を教えてもらい、それをそこで展示します。そうやって連携しながら、こういう情報だったらここに行くと面白いものがありますよというような形で紹介できたり、また面白いサービスですと言ってももらえるような工夫は、まだまだできそうな気がするので、まずは、そういう情報をいただけるといいのかと思います。良い方向に繋いでいただければいいなと思います。
委員	自分が買った本をもう読み終わったから捨てる、もしくはブックオフに売るなどありますが、そういった本を図書館にいただけると良いと思います。本の購入予算が厳しい中で苦渋の選択もあるでしょうが、お持ちの本を集めることができたらいかがかなと。要するに本を読む習慣をつけるというのは、別に難しい本を読めばいいということではなく、自分の興味のあるものを自分で探すなど、とりあえず活字を読む、そういう習慣をつけるために何か面白いことができるとういことだと思います。寄贈本の受け入れは図書館の基本的なことだと思います。

事務局	ありがとうございます。本の寄贈は常にあります。ある程度、選ばせていただいています。ベストセラーの本などは特にありがたいです。児童書の場合はロングセラーの本なども助かります。図書館で活用できるものをいただけたらありがたいです。蔵書の活用方法で課題と思うことは、約 25 万冊ほどの所蔵がありますが、そのうちの約 15 万冊が地下の閉架書庫にあります。開架よりも閉架のほうが量が多いので、閉架の 15 万冊をうまく活用していきたい。それから、資料 5 で、図書館、文化の家、桧ヶ根公園の 3 エリアで都市計画課が主体のワークショップと文化の家と図書館が合同のワークショップで「ひらめきの図書館」というチラシと両方を見てください。今後、図書館と文化の家は、より連携を強めていく方向性を持つという目的があります。うまく連携をして、図書館で言えば新規利用者を増やしていく、図書館の蔵書をより多く活用していく、そういった考え方も含まれます。図書館、文化の家、桧ヶ根公園のこのエリアの中で新しいことを考えていくという目的のあるワークショップです。先ほど委員長がおっしゃられた、自分だけの本棚が、実はこのチラシの中にプレイベントで、私だけの 1 箱本棚を作ろうという企画が含まれています。このイメージが委員長がおっしゃられたイメージと近いのではないかと思います。自分だけのスペシャル本棚だからそれをぜひ、一般の利用者さんも見て、借りていただきたい。今までにはない新しい取り組みなのではと思っています。図書館と文化の家が両方で協力して、ワークショップやイベントを 7 月 8 月で多くの企画を開催します。ギャラリーでは 8 月 16 日から 2 週間ほど常設で展示企画します。こういった取組が図書館の利用状況をもっと活性化させるためのヒントなど、いろいろ出てくるのではないかと考えてるところです。ぜひ委員の皆様にもご参加いただきたいと思います。
委員長	ありがとうございました。 何かご意見あればお願いします。
委員	リニモテラスで行われている、本祭のイベントは、本を寄贈することと、寄贈本を持ち帰るなどのように思いますが、盛り上がっているようです。何かご存知ですか。
事務局	図書館は直接は関わっていないです。楽しい要素が盛りだくさんのようですので、今後の何らかのヒントになると思います。
委員長	本のリサイクルは流行っていますので、そういうのもあるかもしれないですね。他はよろしいですか。
委員	図書館、文化の家、公園とのこれからのことを考えていくと、文化の家には、まだ

	まだ使えるスペースがあるように思います。例えば、2階の受付カウンターや美術室、食文化室、音楽室の廊下やパンフレットがある場所などは、図書館の本の紹介や予約本の受け渡しなどにも活用できるように思います。一般市民の目線で、スペースの活用法を再考するとよいと思います。
委員長	貴重なご意見どうもありがとうございました。他はよろしいでしょうか。 では、3のその他についてお願いします。
事務局	【資料4～5、追加資料を事務局から説明】
委員長	ありがとうございました。
事務局	資料はお配りしていませんが、今年3月26日から4月6日にかけて、図書館の窓口サービスに関するアンケートを実施しました。実施したのは窓口業務委託請負先の株式会社図書館流通センターで、現在、事務局の方で内容を確認中です。配布は500枚で公表できる見込みは8月ごろです。委員の皆様には郵送で送らせていただきますのでご覧ください。
委員長	ありがとうございます。今ご案内いただきました件で何かご質問はありますか。 また、何か報告などありますか。
委員	7月号広報の「みんなの掲示板」に、今週日曜日から伝統文化親子教室を図書館で開催します。無料講座で成人式の振袖の体験ができます。
事務局	補足です。都市計画主催のワークショップの件ですが、今年秋頃に市民説明会の方も予定しているということを報告させていただきます。
委員長	はい。他に何かよろしいでしょうか。 今回は報告事項のみで審議事項はございませんので、これで、令和7年度第1回中央図書館運営協議会を終了させていただきます。 では、事務局に進行をお返しさせていただきます。
事務局	はい、ありがとうございます。第2回目の会議は、令和8年2月頃を予定させていただきますようお願いいたします。 本日は本当にお暑い中、ご足労いただきましてありがとうございました。